

肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状

研究分担者：榎本 大 大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学
研究協力者：瀬戸山 博子 熊本大学大学院生命科学研究部 消化器内科学

研究要旨：本研究は、肝炎患者支援対策事業の一環として全国で養成・配置が進む肝炎医療コーディネーター（肝 Co）の活動状況および経年変化を明らかにすることを目的とし、第3回調査を実施したものである。全国27施設を対象に、肝 Co の現職数・実働数、配置診療科、活動内容についてアンケート調査を行った結果、肝 Co の実働率は90.0%と増加傾向を示し、非専門診療科（眼科、整形外科、産婦人科など）への配置が進んでいることが判明した。また、肝 Co は従来の基本的な役割に加え、肝炎啓発資料の作成、HBV 再活性化予防、無料肝炎検査陽性者の追跡など独自の活動を19項目実施していることが明らかになった。特に眼科での肝 Co 配置が陽性者の専門医紹介に寄与しており、非専門診療科への配置が肝炎対策の充実に貢献していることが示された。本調査では、COVID-19 の制約下においても、ウェブ会議や SNS を活用した啓発・研修活動が行われていることを確認した。これにより、肝 Co の活動範囲を拡大することが活動意欲の向上につながることを示唆された。本研究で得られた好事例は全国的に共有・展開されるべきであり、これらを政策通知に加えることが望まれる。

A. 研究目的

国が実施する肝炎患者等支援対策事業において、全国で養成・配置が進められている肝炎医療コーディネーター（肝 Co）には、正しい知識の普及啓発、肝炎ウイルス検査の受検促進、キャリアに対する適切な受診・受療勧奨、肝炎患者やその家族からの相談に対する助言など、様々な役割が期待されている。

我々は、肝疾患診療連携拠点病院（拠点病院）の肝 Co の養成・配置や活動状況について2019年度（第1回、17施設）[榎本ら. 肝臓 2021; 62: 96-98]、2021年度（第2回、21施設）[磯田ら. 肝臓 2023; 64: 510-513]に調査を行い、肝 Co の実働率が8割前後でやや増加傾向にあり、非専門診療科に配置されつつあることが明らかにした。肝 Co の配置や活動状況の経年推移と、具体的な活動内容を明らかにするため、さらに6施設を加え第3回調査を実施した。

B. 研究方法

第3回調査では、全国27拠点病院において2023年度現在勤務している肝 Co の現職数、実働数、職種、配属部署等についてアンケート調査を行った。調査項目は第1、2回に引き続き、勤務している肝 Co の養成数、現職数、実働数、職種、配属部署等とした。肝炎検査は手術前や入院時スクリーニングとして非肝臓専門の診療科でも広く行われており、特に手術症例数の多い眼科、整形外科、産婦人科では肝炎ウイルス陽性者も多いことが推測される。配属部署は肝臓内科、それ以外の内科、外科および眼科等について調査した。実働の定義は、厚生労働省健康局長通知「肝炎医療コーディネーターの養成及び活用について（健発 0425 第4号）」（以下、通知）に示されている肝 Co の基本的な役割を含むこととした。また今回は、肝 Co の具体的な活動内容についてもさらに詳しく調査した。すなわち通知以外にも独自に行っている活動の内容を記載お願いした。

C. 研究結果

1. 肝 Co 現職数および実働数

27 施設で肝 Co の現職数は 1,085 名(継続率 73.1%)で、実働数は 975 名(実働率 90.0%)であった。実働率については 14 施設が 100%と回答したが、その一方で 33.3%の施設もあった(図 1)。

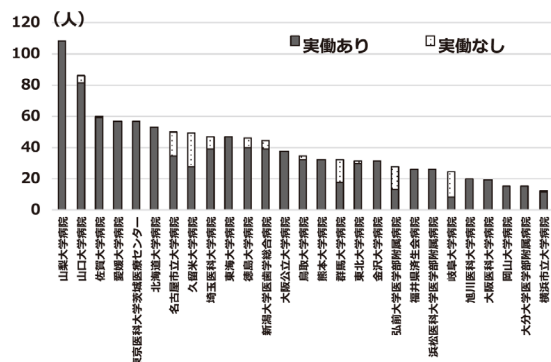


図 1: 肝 Co 現職数および実働数

2. 肝 Co 継続率、実働率の推移

第1-3回まで経年的に評価できた14拠点病院において、継続率、実働率はそれぞれ 75.7%、88.6%で過去調査より増加していた(図2)。

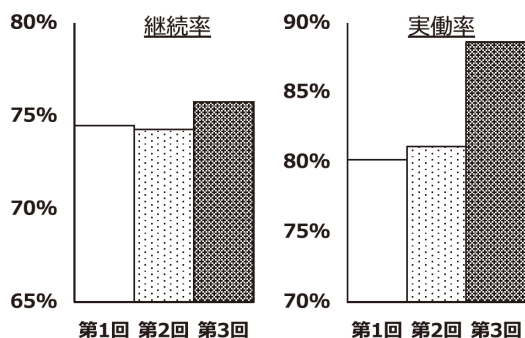


図 2: 経年評価しえた 14 施設での継続率、実働率推移

3. 肝 Co(看護師)の配置診療科の推移

実働する肝 Co の職種は、過去調査と同様に看護師(46%)が最も多く、それぞれの職種が占める割合には変化を認めなかった。看護師である肝 Co の非専門診療科への配置は 12.3%と増加していた。その配置診療科

は眼科、整形外科、産婦人科の順に多かった(図 3)。

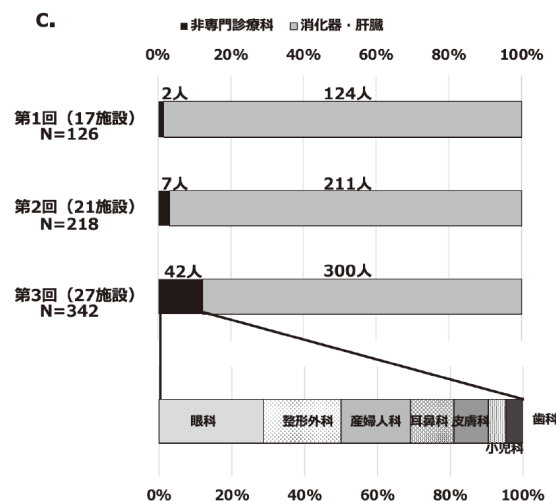


図 3: 肝 Co(看護師)の配置診療科の推移

4. 肝 Co の活動内容

活動内容に関する回答を表 1 に示す。通知に記載がない活動が、肝炎に関する知識普及・啓発資料作成、HBV 再活性化予防など 19 項目認められた。そのような独自の活動は調査施設の 48.1%で実施されていた。

表 1: 27 施設における肝 Co の活動内容

| |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 厚生労働省健康局通知「肝炎医療コーディネーターの養成及び活用について」(健発0425第4号)3.(1)①に記載されている「拠点病院その他の医療機関及び検診機関に配置された肝炎医療コーディネーターの具体的な活動内容の例」に含まれる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎医療に係る情報、知識等の説明、肝炎ウイルス検査の受検案内 ・ウイルス治療後も含めた継続受診の重要性(ウイルス排除後も発がんリスクがあることなど)の説明 ・肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨、専門医療機関の紹介 ・肝炎患者やその家族への生活面での助言、服薬や栄養の指導 ・定期検査費や医療費の助成、身体障害者手帳等の制度説明や行政窓口の案内 ・C型肝炎訴訟やB型肝炎訴訟に関する窓口案内 ・仕事や育児と治療の両立支援相談に関する窓口案内 ・医療機関職員向けの勉強会の開催 ・拠点病院等で実施する肝臓病教室や患者サロンなどへの参加 ・地域や職域における啓発行事への参加、啓発行事の周知 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| II. I. に含まれない肝 Co 活動(19 項目) * 下線部は拠点病院が行う | |
| (肝炎に関する啓発資材作成) ・肝炎啓発動画の作成 ・肝疾患に関するリーフレットの作成・設置 ・肝臓病教室での記事執筆、講演動画の作成 ・肝疾患に関する新聞の作成 ・PWID に対する資材の作成 | (受検、受診勧奨に繋げるための活動) ・院内無料肝炎検査による陽性者掘り起こし ・新規陽性者判明時に、肝臓専門医やコアCoにメールで連絡 ・入院、手術前検査で陽性者の過去の受診歴を確認し、担当医や肝臓専門医につなげる ・入院患者の肝機能検査値確認 |
| (肝Coスキルアップの活動) ・医療スタッフ勉強会を開催(Co以外も含む) ・肝Co養成研修会やスキルアップ研修会等の開催 ・肝 Co 研修会や講演会参加 | (HBV再活性化予防) ・HBV再活性化予防に対する取り組み ・HBV 再活性化予防対策 |
| (その他) ・肝疾患紹介患者の集計・肝疾患患者の薬薬連携 ・肝炎検査結果説明の医師業務補助 ・コーディネーターバッジを着用する ・B 型肝炎の訴訟関連の医師への情報提供 | |

D. 考察

全国 70 あまりの拠点病院のうち 17 施設における肝 Co の配置状況を 2019 年度に調べた第 1 回調査の結果では、現職の肝 Co 数は全体で 480 名であり実働率は 78%であったが、施設により 7.9~100%とばらつきがあった[榎本ら. 肝臓 2021; 62: 96-98]。

2020 年以降は COVID-19 の蔓延によりさまざまな制約が加わることとなり、肝 Co の養成・配置や活動も制約されることが懸念された。第 2 回調査では、新たに 4 施設を加え、2021 年度における肝 Co の配置や活動状況、前回調査からの変化を調査した。その結果、ほとんどの拠点病院では肝 Co の活動が維持あるいは増加していた。肝炎情報センターが開催する肝疾患相談・支援センター関係者向け研修会や日本肝臓学会が開催する学術集会のメディカルスタッフセッション等での報告では、多くの拠点病院が

ウェブ会議システムやマスメディア、ソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS)等を活用して非接触型の啓発イベントや研修会・情報共有を行なっていることが報告されている。

肝炎ウイルス検査は手術前等で非専門診療科でも広く行われ、特に眼科・整形外科は検査数・陽性率とも上位であることから肝炎対策が急務である。大原らの検討では眼科への肝 Co の配置が肝臓内科への陽性者紹介率の向上に関連しており[肝臓 2023; 64: 289-291]、本調査における非専門診療科への肝 Co 配置の進展はこのような背景への関心の高まりを示すものであった。

第 3 回調査では多くの施設で、現時点では通知に記載がない独自の Co 活動を行っていることが明らかになった。今後、これらの好事例を通知に加えるなどして水平展開が進めば、全国の肝 Co にさらに活動の場が広がることが期待される。肝 Co の活動意欲維持において、「活動ができていく実感」を持つことは重要である[瀬戸山ら. 肝臓 2023; 64: 583-586]。本調査からも、肝 Co 実働率の増加が活動継続につながることを推測され、活動の場を広げることは重要である。今回、多くの施設で通知に記載がない独自の Co 活動を行っていることが明らかになった。これらの好事例を水平展開することで、全国の肝 Co の活動の場が広がることが期待される。また、「何をすべきか」が示されるとそのこと自体が動機づけの源になる[Locke EA, Latham GP. Am Psychol 2002; 57: 705-717]ことから、新たな Co 活動として通知などに明示されることが望まれる。

E. 結論

第 3 回調査の結果、肝 Co の実働率が向上し、非専門診療科への配置が進展していることが明らかとなった。肝 Co の独自活動が多様化し、特に非専門診療科への配置が専門医療との連携促進に寄与していることが

確認された。これらの好事例を全国に水平展開し、政策通知に加えることによって、肝Coの役割がさらに拡大することが期待される。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

研究班活動に加えて、大阪公立大学医学部附属病院肝胆膵内科副部長として、大阪府肝炎治療医療費援助事業及び肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業認定協議会委員として、大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課生活習慣病・がん対策グループ(肝炎・肝がん対策担当)と連携し、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。

G. 研究発表

1. 発表論文

- 1) 瀬戸山 博子、榎本 大、佐藤 光明、佐々木 嶺、磯田 広史、徳本 良雄、池上 正、大原 正嗣、井上 貴子、井出 達也、内田 義人、加川 建弘、立木 佐知子、酒井 規裕、永原 天和、戸島 洋貴、井上 淳、島上 哲朗、飯野 勢、橋本 まさみ、川田 一仁、末次 淳、澤田 康司、朝井 章、難波 志穂子、遠藤 美月、米田 正人、是永 匡紹.
肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状(第3報) 肝臓 in press
- 2) 小塚 立蔵、榎本 大、藤井 英樹、打田 佐和子[小林]、河田 則文、是永 匡紹.
肝炎医療コーディネーターと連携した非専門医科のHCV抗体陽性者に対する効率的な個別勧奨 肝臓(0451-4203) 65 巻 11 号 Page551-558(2024. 11)

2. 学会発表

- 1) 中井 香奈子、星野 実果、榎本 大、池永 寛子、武藤 芳美、小田桐 直志、小谷 晃平、元山 宏行、小塚 立蔵、川村 悦史、萩原 淳司、藤井 英樹、打田 佐和子、河田 則文. 肝炎医療コーディネーター主導によるポストコロナ参加型肝炎デーイベントの開催 肝臓(0451-4203) 65巻Suppl. 1 Page A264 (2024. 04)
- 2) 星野 実果、中井 香奈子、榎本 大、池永 寛子、武藤 芳美、小田桐 直志、小谷 晃平、元山 宏行、小塚 立蔵、川村 悦史、萩原 淳司、藤井 英樹、打田 佐和子、河田 則文. 新任肝炎医療コーディネーターによる肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業活用のための患者サポート 肝臓(0451-4203) 65 巻 Suppl. 1 Page A251 (2024. 04)

3. その他

啓発資料

なし

啓発活動

令和6年度第1回肝臓病市民公開講座「肝臓病教室」榎本 大 司会&パネリスト(2024年7月28日)於: 阿倍野キャンパス 医学部4階大講義室

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし